

第49回日米友好祭 伝統と友情を祝う

Honoring tradition and friendship at the 49th Japanese-American Friendship Festival

May 19, 2025

By Airman 1st Class David S. Calcote
374th Airlift Wing Public Affairs

横田基地発—第374空輸航空団は5月17日と18日、横田基地を一般開放して「第49回日米友好祭」を開催した。2日間で約11万7千人が来場した。

2日間を通して、航空機の地上展示や飛行展示、ライブ演奏、文化的なパフォーマンスが行われたほか、アメリカや日本の料理を提供するさまざまなフードブースも並んだ。これらの催しを通じて、来場者は米軍と自衛隊の能力を直接目にしながら、両国が育んできた伝統と友情の絆に触れた。

第374空輸航空団司令官リチャード・マックエルハニー大佐は、「友好祭は、普段ご覧いただくことのない任務の一部を幅広い地域の皆さまに見ていただく貴重な機会です」と語り、「そして空兵だけでなく、統合部隊、日本のパートナーたちの能力と日々の取り組みを示すものです」と続けた。

航空機展示飛行では、第36空輸中隊C-130Jスーパーハーキュリーズのフライオーバー、日米の隊員によるパラシュート降下、そして太平洋空軍F-16デモチームによる飛行展示が披露された。今年は、太平洋空軍F-16デモチームにとって一般に公開される最後の飛行展示となり、第459空輸中隊UH-1Nヒューイも今回が最後の友好祭参加という節目の年ともなった。

第459空輸中隊UH-1N教官操縦士で今回の友好祭実行委員長を務めるマシュー・ヘルム少佐は、「今年の友好祭が成功を収めたのは、横田基地と航空自衛隊のパートナーの緊密な連携があってこそです。計画から実施に至る全ての過程を共に行ってきたことは、我々の同盟の強さを体現しています」と述べた。

第374空輸航空団が主催した今年の友好祭は、自衛隊、地域の支援団体、そして米空軍・海兵隊・海軍の部隊の協力を得て開催された。

こうしたイベントは、日米同盟の強化において重要な役割を果たしている。人々が互いに敬意を払い、協力し合うことで、平和、パートナーシップ、インド太平洋地域の安定に向けた両国の揺るぎないコミットメントが、一層強固なものとなる。

